

科目名	初等体育Ⅰ			担当教員	煙山 千尋、熊谷 慎太郎、竹本 康史、水藤 弘吏、内藤 譲
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1SRE106
期待される学修成果	教科教育 態度				
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	教諭（講師含む）				
実務経験を生かした授業内容	学校現場での経験を活かし、小学校の授業方法に関する講義及び演習を行う。				
到達目標及びテーマ	主に小学校の低学年から中学年で学習する保健体育の目標と学習内容および保健体育の授業を行う教師の在り方を理解するとともに、様々な運動の基礎や授業を実施するために必要な知識及び技能を習得することができる。				
授業の概要	本授業では、小学校学習指導要領に示されている体育の目標を達成するよう、必要な知識・技能、指導方法を中心に学ぶ。本授業では、全体を5グループに分け、器械運動、陸上運動（保健含む）、水泳運動、ボール運動、表現運動をそれぞれ3回ずつローテーション形式で受講する。体づくり運動については、他の各領域における授業に含めて行う。				

授業計画	
第1回	表現運動 1（リズム遊び・リズムダンス）（煙山千尋）
第2回	表現運動 2（表現遊び・表現）（煙山千尋）
第3回	表現運動 3（フォークダンス）（煙山千尋）
第4回	器械運動 1（マット運動）（熊谷慎太郎）
第5回	器械運動 2（鉄棒運動）（熊谷慎太郎）
第6回	器械運動 3（跳び箱運動）（熊谷慎太郎）
第7回	ボール運動 1（ネット型ボールゲーム）（竹本康史）
第8回	ボール運動 2（ゴール型ボールゲーム）（竹本康史）
第9回	ボール運動 3（ベースボール型ボールゲーム）（竹本康史）
第10回	陸上運動 1（短距離走・ハードル走）（内藤譲）
第11回	陸上運動 2（走り幅跳び）（内藤譲）
第12回	陸上運動 3（走り高跳び）（内藤譲）
第13回	水泳運動 1（水慣れ・水遊び）（水藤弘吏）
第14回	水泳運動 2（クロール）（水藤弘吏）
第15回	水泳運動 3（平泳ぎ）（水藤弘吏）

事前学修		小学校学習指導要領において体づくり運動、器械運動、陸上運動（保健含む）、水泳運動、ボール運動、表現運動関係についての記述内容を確認しておく。
事後学修		小学校学習指導要領における体づくり運動、器械運動、陸上運動（保健含む）、水泳運動、ボール運動、表現運動関係の各教育内容のポイントを整理して説明できる。
フィードバックの方法	適宜、助言や講評を行う。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		0%	なし
レポート		60%	各領域ごとにレポートなどによって評価する
上記以外の試験・平常点評価		40%	授業への参加度、取り組み姿勢
補足事項	各領域3回中、2回以上の欠席またはレポート課題の未提出によって、いずれか1領域でも「失格」や「不可」になった場合、本授業全体の評価も「失格」や「不可」となる。		

小学校の中学年から高学年で学習する保健体育の内容については「初等体育Ⅱ」にて学習しますので履修してください。

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料				

科目名	初等体育Ⅰ			担当教員	煙山 千尋、小栗 和雄、熊谷 慎太郎、岩田 高明、内藤 譲
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1SRE106
期待される学修成果	教科教育 態度				
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	教諭（講師含む）				
実務経験を生かした授業内容	学校現場での経験を活かし、小学校の授業方法に関する講義及び演習を行う。				
到達目標及びテーマ	主に小学校の低学年から中学年で学習する保健体育の目標と学習内容および保健体育の授業を行う教師の在り方を理解するとともに、様々な運動の基礎や授業を実施するために必要な知識及び技能を習得することができる。				
授業の概要	本授業では、小学校学習指導要領に示されている体育の目標を達成するよう、必要な知識・技能、指導方法を中心に学ぶ。本授業では、全体を5グループに分け、器械運動、陸上運動（保健含む）、水泳運動、ボール運動、表現運動をそれぞれ3回ずつローテーション形式で受講する。体づくり運動については、他の各領域における授業に含めて行う。				

授業計画	
第1回	表現運動 1（リズム遊び・リズムダンス）（煙山千尋）
第2回	表現運動 2（表現遊び・表現）（煙山千尋）
第3回	表現運動 3（フォークダンス）（煙山千尋）
第4回	器械運動 1（マット運動）（熊谷慎太郎）
第5回	器械運動 2（鉄棒運動）（熊谷慎太郎）
第6回	器械運動 3（跳び箱運動）（熊谷慎太郎）
第7回	ボール運動 1（ネット型ボールゲーム）（小栗和雄）
第8回	ボール運動 2（ゴール型ボールゲーム）（小栗和雄）
第9回	ボール運動 3（ベースボール型ボールゲーム）（小栗和雄）
第10回	陸上運動 1（短距離走・ハードル走）（内藤譲）
第11回	陸上運動 2（走り幅跳び）（内藤譲）
第12回	陸上運動 3（走り高跳び）（内藤譲）
第13回	水泳運動 1（準備運動とその意義、水中姿勢と脱力、面かぶりクロールの指導、蹴伸び:水中姿勢・脱力、蹴伸びバタ足）（岩田高明）
第14回	水泳運動 2（クロールの指導、平泳ぎの指導、背浮き、背泳ぎ）（岩田高明）
第15回	水泳運動 3（泳法・泳力検査、指導法の工夫、指導上の留意点、救急対応）（岩田高明）

事前学修	0.5時間	小学校学習指導要領において体づくり運動、器械運動、陸上運動（保健含む）、水泳運動、ボール運動、表現運動関係についての記述内容を確認しておく。
事後学修	0.5時間	小学校学習指導要領における体づくり運動、器械運動、陸上運動（保健含む）、水泳運動、ボール運動、表現運動関係の各教育内容のポイントを整理して説明できる。
フィードバックの方法	適宜、助言や講評を行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	なし
レポート	60%	各領域ごとにレポートなどによって評価する
上記以外の試験・平常点評価	40%	授業への参加度、取り組み姿勢

補足事項	各領域3回中、2回以上の欠席またはレポート課題の未提出によって、いずれか1領域でも「失格」や「不可」になった場合、本授業全体の評価も「失格」や「不可」となる。 小学校の中学年から高学年で学習する保健体育の内容については「初等体育Ⅱ」にて学習しますので履修してください。
------	---

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料				

科目名	初等体育Ⅱ			担当教員	小栗 和雄、竹本 康史、岩田 高明	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED3SRE107	
期待される学修成果	基礎教養 教科教育					
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク					
実務経験	教諭（講師含む）					
実務経験を生かした授業内容	学校現場での経験を生かし、小学校における体育の授業法について講義と演習を行う。					
到達目標及びテーマ	小学校で学習する体育の目標と学習内容を理解するとともに、体育の授業を行う教師のあり方、様々な運動の基礎、小学校の保健の教科内容を習得することができる。					
授業の概要	小学学習指導要領体育に示されている体育の目標を達成するよう、必要な知識・技能、指導方法を中心に学ぶ。ここでは、受講生を3グループに分け、水泳、ボール運動、陸上運動（保健）をそれぞれ5回ずつ受講する。					

授業計画	
第1回	水泳1 準備運動とその意義、水中姿勢と脱力、面かぶりクロール（岩田高明）
第2回	水泳2 蹴伸び:水中姿勢・脱力、蹴伸びバタ足、面かぶりクロール、入門期の泳法(浮く・進む)（岩田高明）
第3回	水泳3 クロールの指導・効率の良い泳ぎ方・息継ぎ、平泳ぎの指導①プルとキック（岩田高明）
第4回	水泳4 背泳ぎの指導、背浮き,息継ぎ,キック,視線、平泳ぎの指導②プルとキック（岩田高明）
第5回	水泳5 泳法・泳力・指導力テスト・泳法+泳力 3種、プール(水泳)指導の留意点（岩田高明）
第6回	陸上運動1 短距離走（スタート姿勢、序盤・中盤・後半の疾走技術）（小栗和雄）
第7回	陸上運動2 走り幅跳び・高跳び（助走、踏切、空中の姿勢とバランス、踏切から着地）（小栗和雄）
第8回	陸上運動3 ハードル走（ハードリングとインターバル、スタート、またぎごし）（小栗和雄）
第9回	陸上運動4 走跳投の運動遊び（低学年で扱う基礎的な運動）（小栗和雄）
第10回	保健学習 「保健学習」の位置づけ、毎日の生活と健康、育ちゆく体と私、心の健康、けがの防止、病気の予防（小栗和雄）
第11回	ボール運動1 ソフトボールの指導法（ベースボール型）（竹本康史）
第12回	ボール運動2 バレーボールの指導法（ネット型）（竹本康史）
第13回	ボール運動3 テニスの指導法（ネット型）（竹本康史）
第14回	ボール運動4 バスケットボールの指導法（ゴール型）（竹本康史）
第15回	ボール運動5 サッカーの指導法（ゴール型）（竹本康史）

事前学修	0.5時間	小学校学習指導要領において水泳、陸上運動（保健含む）、ボール運動関係についての記述内容を確認しておく。
事後学修	0.5時間	小学校学習指導要領における水泳、陸上運動（保健含む）、ボール運動関係の各教育内容のポイントを整理して説明できる。
フィードバックの方法	実技に対し、適宜、助言や講評を行う。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
レポート		90%	各分野の授業終了後にレポートが課される。
上記以外の試験・平常点評価		10%	授業への参加度。
定期試験		0%	なし
補足事項	5回中3回以上の欠席、またはレポート課題の未提出によっていずれか1種目でも「失格」や「不可」になった場合、本授業全体の評価も「失格」や「不可」となる。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし	なし	なし	なし	なし
参考資料				

科目名	初等体育Ⅱ			担当教員	小栗 和雄、竹本 康史、小椋 優作	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED3SRE107	
期待される学修成果	基礎教養 教科教育					
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク					
実務経験	教諭（講師含む）					
実務経験を生かした授業内容	学校現場での経験を生かし、小学校における体育の授業法について講義と演習を行う。					
到達目標及びテーマ	小学校で学習する体育の目標と学習内容を理解するとともに、体育の授業を行う教師のあり方、さまざまな運動の基礎、小学校の保健の教科内容を習得することができる。					
授業の概要	小学学習指導要領体育に示されている体育の目標を達成するよう、必要な知識・技能、指導方法を中心に学ぶ。ここでは、受講生を3グループに分け、ボール運動、水泳、陸上運動（保健）をそれぞれ5回ずつ受講する。					

授業計画	
第1回	水泳1 水慣れ、水遊び（小椋優作）
第2回	水泳2 クロールの泳法（小椋優作）
第3回	水泳3 平泳ぎの泳法（小椋優作）
第4回	水泳4 クロールと平泳ぎの指導法（小椋優作）
第5回	水泳5 水中安全教育（救助法、着衣泳）（小椋優作）
第6回	陸上運動1 短距離走（スタート姿勢、序盤・中盤・後半の疾走技術）（小栗和雄）
第7回	陸上運動2 走り幅跳び・高跳び（助走、踏切、空中の姿勢とバランス、踏切から着地）（小栗和雄）
第8回	陸上運動3 ハードル走（ハードリングとインターバル、スタート、またぎごし）（小栗和雄）
第9回	陸上運動4 走跳投の運動遊び（低学年で扱う基礎的な運動）（小栗和雄）
第10回	保健学習 「保健学習」の位置づけ、毎日の生活と健康、育ちゆく体と私、心の健康、けがの防止、病気の予防、安全管理（小栗和雄）
第11回	ボール運動1 ソフトボール（ベースボール型）（竹本康史）
第12回	ボール運動2 バレーボール（ネット型）（竹本康史）
第13回	ボール運動3 テニス（ネット型）（竹本康史）
第14回	ボール運動4 バスケットボール（ゴール型）（竹本康史）
第15回	ボール運動5 サッカー（ゴール型）（竹本康史）

事前学修	0.5時間	小学校学習指導要領において水泳、陸上運動（保健含む）、ボール運動についての記述内容を確認しておく。
事後学修	0.5時間	小学校学習指導要領における水泳、陸上運動（保健含む）、ボール運動の各教育内容のポイントを整理して説明できる。
フィードバックの方法	実技に対し、適宜、助言や講評を行う。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
レポート		90%	各分野の授業終了後にレポートが課される。
上記以外の試験・平常点評価		10%	授業への参加度。
定期試験		0%	なし
補足事項	5回中3回以上の欠席、またはレポート課題の未提出によっていずれか1種目でも「失格」や「不可」になった場合、本授業全体の評価も「失格」や「不可」となる。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし	なし	なし	なし	なし
参考資料				